

第32回応用倫理・応用哲学研究会

人工子宮に関する倫理問題と倫理受容性

現在人工子宮の開発が進められており、近いうちにそれが実用化される可能性も低くはない。しかし人工子宮は不妊治療の一つとして社会的に受容されるのであろうか。またどのような目的でなら、人工子宮技術の使用は認められるのであろうか。人々がそれに不安や懸念を感じる理由はどこにあるのであろうか。そして人工子宮の利用に関する倫理問題はiPS細胞などの再生医療(人工胚)や、内密出産の是非といった問題とどのように関わるのであろうか。今回の研究会では、AWT(人工子宮技術)適用の想定されうるシナリオと、また、それが生命倫理に与える影響について説明する。研究会の後半では、大学生における人工子宮技術の受容性に関するパイロット研究結果を分析する。

発表者 シルヴィア・オレーヤージュ (北海道大学・北海道医療大学)

専門：生命倫理学、心理学

研究テーマ：生殖倫理（主に赤ちゃんポスト、内密出産、人工子宮に関する倫理問題）

コメンテーター 冲永 隆子 (帝京大学・帝京科学大学)

専門：生命倫理

1月27日(土) 14:00-16:00

Zoom Meetings 開催

定員300名

無料・日本語

参加には事前参加申込が必要です

参加希望者はQRコード
またはURLからお申込みください。
申込締切

2023年1月26日（16時）まで



<https://forms.gle/cfHrorAv43VWDP8c9>

お問合せ

北海道大学大学院文学研究院

応用倫理・応用哲学研究教育センター 事務局

〒060-0810

札幌市北区北10条西7丁目

Tel: 011-706-4088

Email: caep@let.hokudai.ac.jp

HPURL: <http://caep-hu.sakura.ne.jp>

Twitter: @caep_hu

